



群馬マスタース通信

【役員挨拶】

1. 中沢会長 …P2
2. 大谷副会長(第40回記念・国際全日本マスタース陸上競技選手権大会／実行委員長) …P3
3. 鈴木事務局長(第40回記念・国際全日本マスタース陸上競技選手権大会／事務局長) …P4
4. 岡田理事長 …P5
5. 宮崎副理事長 …P6
6. 高橋事務局長 …P7
7. 特別寄稿(陸上競技大会 Dr.星野光治氏 …P8、岩井副会長 …P9)

【専門委員会活動報告】

1. 総務委員会(中村委員長) …P10
2. 競技委員会(本多委員長) …P10～11
3. 審判委員会(遠山委員長) …P11
4. 記録委員会(田中島委員長) …P12
5. ロード委員会(木暮委員長) …P12～13
6. 広報委員会(委員長代行田中) …P13
7. 女子委員会(細谷委員長) …P14
8. 強化普及委員会(金子委員長) …P15

【クラブ紹介】

1. 玉村クラブ(代表:田中島 務) …P16
2. チーム峰(代表:峰崎 富夫) …P16

【優勝チーム喜びの声】

1. AC 王山(群馬マスタース駅伝大会／クラブ対抗の部) …P17
2. 高崎クラブ(群馬マスタース陸上競技／クラブ対抗) …P17



《役員挨拶》

あいさつ

会長 中沢 丈一

新年あけましておめでとうございます。皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、群馬マスタース陸上競技連盟の諸事業に対しまして、多大なるご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、いよいよ今年9月、第40回記念・国際全日本マスタース陸上競技選手権大会が、ここ群馬県で開催されます。群馬マスタース陸上競技連盟としても総力を上げて成功させなければなりません。皆々様のご協力をよろしく願いいたします。

特に、今回は、「第40回」の記念大会であります。又、国際大会でもあります。

日本マスタース陸上競技連合から、全国から、諸外国から、大きな期待が寄せられていますので、準備万端整え、3000名の仲間を迎え、大会キャッチフレーズであります「鶴舞う形の群馬県、いつも青春、ずっと青春！」の感動を与えられる、歴史に残る群馬大会にしていまいりますので、重ねてご協力をお願いいたします。結びに、皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。

《役員挨拶》

苦あり・楽あり・半年！第40回記念・国際全日本マスタース陸上競技選手権大会

群馬大会事務局 大谷 勝義

新しい年を迎え、いよいよ「第40回記念・国際全日本マスタース陸上競技選手権」開催年になりました。

3年前、群馬の理事会において「全日本マスタース陸上競技大会」の群馬開催を決定！不安を抱えながらの出発でしたが、ここに至っては皆さんの協力を頂きながら、全国から来県するマスタースアスリートのために、思い残る「40回記念群馬大会」にしないでなりません。

大会の成功の一つは、競技会の運営がスムーズに進行し、選手に不満が残らないことです。幸い群馬陸上競技協会は、関東、全国の大会を多く経験しており、そのノウハウを熟知しているので心強いものがあります。競技が終了と同時に電光掲示板に成績発表。そして表彰が迅速であることが選手・観客の満足感が得られます。群馬陸上競技協会は、その辺は自信を持って対応頂いており、有り難く安心しております。

二つ目は、前年開催した39回鳥取大会に見られた選手への「気配りやおもいやり」は、参考になります。選手受付が済み、競技場に向かう時、役員・補助員が拍手で送り出す様子は、県民性なのでしょうか、他の大会では見られない心優しい光景でした。群馬は何をしたら良いか皆さんの助言を頂きたいのです

三つ目は、40回記念大会に相応しい内容が随所に仕組まれ、群馬は素晴らしかったという思い出深い大会に出来るかということでしょう。

現在、賞状や記念品等のアイデアの他に、競技会の前夜に行われる開会式の工夫等、内容の吟味を係員一同頑張っております。

40回記念群馬大会は、外国人を含め2500人という過去最大の参加が見込まれ、大会期日も4日間開催と連合本部から要請されました。競技時間が増える関係で、開始式は省こうとの連絡も受けましたが、大会運営は容易でない大会となりそうです。

このように大規模となる40回群馬大会は経費もかさみます。現在、会長をはじめマスタース役員、各クラブ員の代表の方々が会議を通して煮詰めておりますが、群馬マスタース会員の皆様の広告協賛の集約を頂くことが何よりの頼りです。

苦あり・楽ありの半年間となりますが、終わって群馬マスタース陸上競技連盟会員の皆さんで大会成功の盃を交わせるよう願っております。

《役員挨拶》

群馬大会の成功を目指して

群馬大会事務局 鈴木 長善

この年が明けて、いよいよ楽しみと責任を感じる大会「第40回記念・国際全日本マスタース陸上競技選手権大会群馬大会」が、どんどん迫ってくる。資金面の事務局としては、競技の参加者数と群馬県内の企業様への広告掲載賛助金が予定通り集約する事が可能か心配な時期であります。

大会総予算額は2,500万円で、参加競技者数については、群馬県は関東中心県のために、2,500人を見込んで、総予算の半分以上を競技参加料7,000円/人で計画しています。

また、広告掲載賛助金は賛同企業様の会社経営が左右する事から計画予算額に到達するか可能かは、各クラブの皆様にご協力して頂く事が必要となりますので宜しくお願い致します。

大会の成功目指して今後の半年間で広告掲載賛助金(200万円)の集約をしたいと思っております。



《役員挨拶》

陸連 ID と第 40 回記念・国際全日本マスタース陸上競技大会

理事長 岡田 節男

2018 年の課題は陸連 ID 登録と第 40 回記念・国際全日本マスタース陸上競技大会でした。

2018 年の登録者数は 585 人で、審判員を含めた陸連登録者 145 人で 24.7%でした。

2018 年と 2019 年は県外大会や関東、全日本大会に出場するには陸連 ID が必要です。

2018 年の関東と全日本の大会に出場した人は 2～30 人でしたので、群馬県大会に参加した人が大多数でしたので、陸連 ID を必要としない人がほとんどでした。

しかし、第 40 回記念・国際全日本マスタース陸上競技大会に出場するには陸連登録が必要になります。

その第 40 回記念・国際全日本マスタース陸上競技大会は 9 月 13 日(金)～16 日(月)でマスタースはじめての 4 日間開催になります。予想参加者は 2,500 人を越える予想が考えられます

それに係わり 2019 年の競技会は、春季大会とクラブ対抗の 2 大会を実施しません。

第 40 回記念・国際全日本マスタース陸上競技大会群馬大会に向け、現在エントリーブックの作成、会場の構想、競技日程、プログラム広告の依頼等の仕事を実行委員が分担をして準備を進めています。

よい全国大会にしていきたいと思いますので、今後多くの会員の皆様にお手伝いいただきたいと思っています。

最後に萩原将雄副会長が 2018 年 10 月 25 日肺炎でご逝去されました。多大なご協力とご支援をいただき感謝に堪えません。

惜しい人を亡くし、気持ちの上では大変無念だと感じています。

ご冥福をお祈りいたします。

《役員挨拶》

全国大会開催を今秋に控えて

副理事長 宮崎 幸夫

昨年度より群馬マスタース陸上競技連盟の事務局で活動をさせて頂いております副理事長の宮崎です。よろしくお願いたします。

さて、私自身マスタースの全国大会に出場した経験はなく、大会のイメージがまったく分からず、大会事務局長や理事長その他の事務局の方々の話を聞くのがやっとの状態でした。その中で何をどの様に進めたらよいかを他県の大会を参考とし、事務局で話し合い、何とか理解しようと現在に至っております。

この秋の群馬大会は関東ということでかなり多くの方々のエントリーが予想されます。その大会を成功させるためには、まず会員である皆様のお力が必要になると思います。大いに大会に出場してください。そして、大会に出場されない方は審判員や補助員及び係員として会員全員で協力し、大会を成功させて欲しいと願っています。

9月21日～24日まで鳥取県で開催された昨年度の全国マスタース陸上競技選手権大会を視察してきました。大会規模の大きさに驚くとともに、スムーズに競技が流れ、大会を運営していました。良いところや真似が出来るようなところを視察してきましたので、これを参考にし、よりよい大会が開催できればと思っております。しかし、一番心配していることは、参加者数の多さです。これから3月までにこれをどのように解消していくかをしっかりと協議していきたいと考えています。

《役員挨拶》

拍手と歓声に包まれる群馬大会を！！

事務局長 高橋 裕

夕闇迫るバックストレートを走り抜ける選手の影、影、影。次第にその姿が大きくなり、目の前に迫ってきました。そして、必死にもがきながらゴールを目指していきました。精も根も尽き果てて倒れ込む多くの選手たち。息を吹き返すや大きな声援と拍手の中、互いの健闘を称え合う姿は陸上競技の、スポーツのすばらしさを実感させる感動的な光景になりました。マイル(4×400m)リレーは陸上競技の華と言われています。鳥取の地でそのすばらしさを肌で感じ取ることができました。全競技種目の最後に行われるこのリレーが大きな盛り上がりを見せたことは、全日本マスタース鳥取大会の成功を象徴するものでした。

新潟から和歌山、鳥取とバトンを受け継いできた全日本大会。いよいよ群馬の出番です。参加を兼ねて過去3大会を視察させていただきました。どの大会も開催に向けての苦労や運営の難しさを目の当たりにすることができました。大会それぞれに良さや課題があり、群馬大会にも参考になることが多く、大変勉強になりました。群馬大会開催まであと半年と迫ってきましたが、解決していかなければならない多くの課題が残されています。役員の皆様の英知を結集して万全の準備を進めていかなければなりません。

鳥取大会を超える多くの選手の参加をいただき、スタジアムが拍手と歓声に包まれる光景を群馬でも再現できたらすばらしいなと思っています。鳥取大会では選手が招集所から競技場所に移動する間に係員の方々が拍手や声援で送り出していました。このように「選手に気持ちよく競技してもらおう」という『おもてなしの心』が大会を貫いていたことは大いに見習うべき点でした。「群馬に来てよかった」「良い大会だった」と多くの選手に感じてもらえるような全国に誇れる大会運営を目指していきたいと思っています。役員の皆様、会員の皆様には、例年以上のご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

《特別寄稿》

「ランドクターとして東京マラソン参加」

群馬マスタース陸上大会競技役員〔医務員〕 Dr.星野 光治

2018年2月25日、第12回東京マラソン大会にランドクターとして参加してきました。参加条件として

- 1.フルマラソン5時間以内で走れること
- 2.他のマラソン大会日医ジョガーとしてフルマラソン1回以上参加
- 3.ハーフマラソン1回以上参加
- 4.一次救命処置(以下BLS)の講習会を直前に受けていること(12/23受講)

いよいよマラソンがスタートです。10kmまでが10名、10km～42.195kmまでが40名「合計50名」の医師が走りながらランナーの健康管理を行います。5分間隔で2～3名の医師が同時スタートし、走るスピードに変化を持たせ、万遍に医師がいるようになっています。私は10km地点から10時半にスタート、東京駅に14時46分にゴールの予定で、1kmペース7.5分で周囲に気を配りながら走行していました。また、10km地点を同時に出発した1km7分のランドクターは、19km地点で崩れるように倒れたランナーに遭遇、心肺停止を確認、蘇生開始していました。自分も含め複数のランドクター集結。交代で蘇生続行、周辺のBLSサポーターがAEDを持っておらず、近くの地下鉄森下駅に設置してあるAEDを駅員が警察官に渡して、警察官がその現場まで搬送し、心肺蘇生を実施しているところにAEDが到着しました。直ちにパットを装着AEDの解析に従って電気ショックを実施、倒れていたランナーは、1回目で心拍再開、意識も回復、周りを見回せることができました。「あなたの心臓は止まっていたのです」の呼びかけに本人がびっくりしていました。意識の回復と応答可能を確認し、居合わせたランドクターと感動の握手のあとランナーの中に戻りました。後でこの症例の報告を受けましたが、このランナーは今回参加しているランドクターが勤務している病院に搬送、心カテで冠動脈の1本が75%狭窄あり経皮的冠動脈が施行されています。その後は傷病者に遭遇せず予定時間を18分オーバーでゴールしました。今回の東京マラソンでは3名の心肺停止の症例がありましたが、いずれも完全に回復しています。2例は日医ジョギーズのランドクターが関係、1例は一般ランナー(医療従事者)が関係しました。2007年(第1回30,870人参加)2名心肺停止・・・2017年(第11回)まで、延べ38万人参加し8名心肺停止、今回第12回の37,000人参加で3名心肺停止は過去最多でした。これまでも含め全員が救命されています。今回の3名は年齢55歳が2名、52歳が1名で全員男性です。東京マラソンオフィシャル情報によると、アメリカの大会に比べ東京マラソンはランナーの心肺停止率が3.8倍と高くなっていますが、救命率ではアメリカが39%に対して、東京マラソンは100%です。周りを走っているランナーや大会をサポートするボランティアの救命活動が大きいようです。東京マラソンは普段車が走っているランニングすることが出来ない東京の中の車道を7時間も独占できる大会です。最初の年で4倍、今年は13倍の倍率で37000のランナーが参加しました。10kmとフルマラソンの2種類があって東京都庁から両方のコースのランナーが同時にスタート飯田橋から神田経由で日本橋が10kmのゴール、浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～高輪～日比谷～東京駅前を經由して行幸通りでゴールします。途中、東京都庁本庁舎、日本橋、雷門、銀座、皇居、スカイツリー、東京タワーなど普段は道端の歩道からしか見る事の出来ない東京の観光スポットを道の真ん中から、またいつもは車が走っている車道から全面車両通行止めで見る事ができます。ドクターのビブスを着て走っていると沿道からの応援が大変あり、できれば次回もランドクターか一般ランナーであっても救命に参加するつもりで走りたいと思います。



《特別寄稿》

全日本マスタース陸上競技選手権群馬大会に向けて

副会長 岩井 均

群馬マスタース陸上競技連盟の会員の皆様には、日頃から当連盟の様々な行事にご協力賜り、心から御礼申し上げます。

平成28年の全日本マスタース陸上競技選手権新潟大会に、当連盟役員及び群馬陸協役員と視察に伺い、大会の流れや運営状況を学ぶ中で、全国の多くの方々がマスタース陸上競技に真剣に取り組まれている姿勢を目の当たりにしました。来県される方々が、群馬大会に出場して良かったと言って頂けるような大会にしていかなければならないと痛感しました。

当連盟ではその後、大会の成功に向けて、長時間にわたる会議を何度も重ね、率直な意見を出し合いながら取り組んでいますが、これからの期間が非常に重要です。お一人お一人が自らの役割をしっかりと果たし、皆で一丸となって、大会の成功に向けて頑張っていきましょう。

また、県内外から多くの選手や関係者が本県を訪れる貴重な機会であり、温泉や観光地など本県の魅力を大いに発信していきたいと思えます。

これまでに、大会の競技種目の多さから、敷島公園補助陸上競技場の8レーン化について県に要望して参りましたが、今年度中には完成する予定です。

結びに、マスタース陸上競技は生涯スポーツに相応しい競技であり、本大会を契機として、大勢の方々がいつまでも陸上競技を続けることができることを心から願っています。



《専門委員会活動報告》

- | | | | | | |
|----------|-------|-------|------------|------------|-------|
| 1. 総務委員会 | 総務委員長 | 中村 哲也 | 5. ロード委員会 | ロード委員長 | 木暮 幸一 |
| 2. 競技委員会 | 競技委員長 | 本多 和彦 | 6. 広報委員会 | 広報委員長 (代行) | 田中 |
| 3. 審判委員会 | 審判委員長 | 遠山 博 | 7. 女子委員会 | 女子委員長 | 細谷 好子 |
| 4. 記録委員会 | 記録委員長 | 田中島 務 | 8. 強化普及委員会 | 委員長 | 金子 健司 |

＜総務委員会＞ 2018年 活動報告

総務委員長 中村 哲也

日頃より総務委員会に対しましてご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2018年の総務委員会の活動といたしましては昨年同様、各大会に向けた諸準備、理事会等会議の開催及び進行、大会プログラム作成並びに結果等のホームページ更新などを行ないました。

2019年は何より、群馬マスタース陸上競技連盟にとって最大の行事であります全日本大会を控え、着々と準備をこなしているところでございます。大変多くの会員の皆様や陸上関係者のご協力をいただきながら、大会が成功裡に終わるよう、赤石総務担当副会長のご指導のもと、今後も準備をまいります。

2018年を改めて振り返りますと、個人的なことではございますが、同世代の者がマスターズの大会に出場し、活躍している姿を拝見することが多くありました。一線を退いてから20年近くが経ち、競技スポーツから生涯スポーツへシフトしていく者が身近に増えたように感じました。本年行われる全日本大会では私と同世代のアスリートも数多く参加する予定ですので、共に現役時代を戦った仲間にお会いできることも、今から楽しみにしております。

最後になりましたが、2019年が会員の皆様方にとって素晴らしい一年になりますよう、心よりご祈念申し上げます。

＜競技委員会＞ 初年度の運営活動を終えて

競技委員長 本多 和彦

2018年より、競技委員会は、高崎クラブで運営していくことになり、私とその代表を務めることになりました。関係者の皆様のおかげで、初年度を何とか終えることができました。

さて、競技委員会の主な業務は、県内3大会(春季、選手権、クラブ対抗)のプログラム原稿の作成です。

5月の春季大会のプログラム原稿作成から活動が始まりました。前任者の大泉クラブの齊藤克己さんの指導を受けて、競技委員会の業務開始です。

プログラム原稿の作成

到着した参加申込書の記載内容を確認し、個票を切り離すことから作業が始まります。＜下へ続く＞

《専門委員会活動報告》

個票の内容を入力していきます。個票の記載内容を正確に入力することが、最初のそして一番大切な作業になります。入力を終えた後、高崎クラブの5人の委員の皆さんに入力内容の確認をしていただき、理事長、事務局長立会いのもと、斎藤副会長の最終チェックを経て、プログラム原稿の仕上がりとなります。その後、登利平の中村さんのご尽力により、プログラムの完成となります。

「会員の皆さんへのお願い」

参加申込書を作成したら、記載内容に誤り、記入不足がないか、今一度見直しをしてください。元資料が一番大事です。また、誤りをなくすために、ぜひ、読みやすい字で記入して下さるようお願いいたします。

本年も、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

.....

＜審判委員会＞ 平成30年群馬マスタース陸上大会の審判員出席状況報告

審判委員長 遠山 博

日頃より、審判委員会に対しご支援、ご協力を賜わり感謝申し上げます。平成30年は、これまでと同様、総務委員会と協力しつつ、大会役員委嘱の手配、通知を行って来ました。その結果、今年も、4大会(3陸上大会+1駅伝大会)が無事に終了しましたことに対し、大会役員、競技役員、各大学、高等学校陸上部の顧問の先生方には心から感謝を申し上げる次第であります。

4大会の審判員の出席状況は下記のような結果でした。

【2018年(H30年)4大会における審判員の出席状況】 二大学

大会名	委嘱人数	出席人数	出席率	出席数	全出席率
1. 春季大会 (5月)	189人	125人	66.1%	25人	70.1%
2. 駅伝大会 (6月)	68人	39人	57.4%	—	57.4%
3. 選手権大会(9月)	204人	90人	44.1%	46人	54.4%
4. クラブ対抗(10月)	196人	101人	51.5%	40人	59.7%

4大会の審判員出席率平均では、60.4%であり、年々低下する傾向にあります。

前年も述べましたが、マスタース大会特有な“選手兼審判員”というように競技を楽しみながら、審判員としても協力する方もいますので、審判部署によっては若返りするところもあります。

今後、ますます審判員の養成、確保が課題になりますので、つきましては、各クラブのご協力で審判員の確保にもご尽力をお願い致します。一年間大変お世話になりました。

.....

《専門委員会活動報告》

＜記録委員会＞ 2018年 活動報告

記録委員長 田中島 務

群馬マスタース陸連の大会活動の中でも、クラブ対抗戦ほど、我々記録担当者を悩ますものはない。終盤になり、特に総合得点が、最終6位に入る可能性のあるクラブチームほど熱心に得点集計に動く。

時には、異議を感じたクラブは、勝手に記録室に入ってきてクレームをつける“まちがっている”と言い出すから、混乱が起こる。そんな中で、賞状を持ち込んで“名前が違う”“記録が違っている”“県新記録が漏れている”など、代わる代わる出入りが続く。そして、競技終盤は、陸上の華リレー種目となって、クライマックス……。毎年、こんな騒々しい環境の中で、クラブ対抗戦が行われていて、もう少し静かで落ち着いた部屋で、結果記録の整理が出来たら、と思っています。

反省として、①リレーは、1人1種目、②リレーは、申込みメンバー6人以内とし、オーダーは、その6人の枠だけとする。(従って他のリレーチームからのメンバー融通や他の種目からの融通もだめ)以上2点の“リレールール”採用を提案します。このルールは、群馬陸協ですでに実施しています。

現状では、オーダーシートの確認チェックの余裕さえないまま大会の幕がとじます。このような混乱の多い中でも、正確で迅速にデータ処理ができるように、意欲的に新しいプログラムの開発導入にも情熱を注いでいる。競技結果の記録整理に対しての取り組みは、【県記録や大会記録】の新記録樹立の自動チェック表記の基本ソフトは準備できていて、その基本ソフトを試行するには、その製作者も立会いの下、不慮のトラブルに備えながら慎重に対応する必要があります。今後も機会をみて基本ソフトの試行を進めて、その機能性について確認して行きたいと考えています

.....
＜ロード委員会＞ 平成30年度 ロード委員会活動報告

ロード委員長 木暮 幸一

今年度の活動としては「第16回群馬マスタース駅伝大会」を、6月10日(日)に前橋総合運動公園で開催致しました。当日は晴天に恵まれ、日頃から陸上を愛する選手の方々が各チーム団結し、クラブ対抗の部には6チームが参加、そして交流の部には36チームの参加で熱戦が繰り広げられ、4区間にタスキが受け継がれました。その結果は、クラブ対抗の部では、AC王山チームが、見事3連覇を達成。ゴールで歓声が沸いた。また、交流の部は、年齢編成で7区分に別れて優勝を競った。その優勝チームは、〔1部:TEAM・K〕〔2部:AC王山〕〔3部:チーム粕川(北爪)〕〔4部:藤岡市ゆっくり走ろう会A〕〔5部:荒砥走友会(かがやき)〕〔6部:JAC-E〕〔7部:TEAM・K2〕でした。

今年の賞品は、藤岡・新町で生産されました、真っ赤な「トマト」が贈られました。選手の皆さんは大変喜んでくれました。

大会運営の面では、昨年同様に計測は、ネオシステム株式会社のご協力により、＜下に続く＞

《専門委員会活動報告》

正確かつスピーディに結果、成績が発表されました。今回も事故無く無事に終了できましたことは、いろんな面でご協力くださいました役員の皆様のお蔭です。心よりお礼申しあげます。今後も更なる充実した大会を開催運営していきたいと思っております。

なお、今年度は、群馬マスターズチームとして、「全日本マスターズ駅伝大会」と「東日本マスターズ駅伝大会」には参加が叶いませんでした。

来年度は、しっかりとチーム編成し群馬マスターズの力を示したいと思っております。

一年間ご協力有難うございました。

.....

＜広報委員会＞ 2018年の活動報告について

広報委員長代行 田中 昭光

2018年は、専門委員会の担当変更に伴い、競技委員会の久保田委員長(大泉)が退任されて、その後任として、広報委員長だった本多さん(高崎)が、年初から新競技委員長に転任されました。

在任中は、本多さんのご尽力もあって、群馬マスターズ陸連は年々会員が増加をたどり、全国のマスターズ陸上ファンが、“群馬マスターズはすごい”と、会員数日本一を称えてくれたのも頷ずけます。本多さんは、混成競技(十種競技)を愛し、体の奥底からマスターズ陸上に酔いしれて“アスリート魂”で、高崎クラブの会員数を倍増し、群馬マスターズ陸連のトップグループに押し上げて、クラブ対抗戦を益々面白くしています。

そんな交代劇の折、私の生活環境がいろいろ変わり後任広報委員長の選任が手間取る中で、“目途が立つまで兼務でもいいですよ”と、本多さんから助け舟があって、それに甘えることになった。

いざとなっても時機を失すると、考えた以上に後任委員長の選任話は困難が続き実現は遠のいた。

猛暑のなかでも、後任委員長を求めて活動していると、思いがけないヒントを与えてくれた人との出会いで大いに可能性が広がり、ほどなくして新広報委員長(案)が具体的に進み始めて、関係する方々に相談して了解を得た上で、11月17日(土)理事会で[2019年・新広報委員長として「白水正昭氏」(上州アスリート代表・ロード副委員長兼務)の選任を提案し]承認されたことを報告致します。

現在、2019年2月発行予定で「群馬マスターズ通信」定期号の編集作業を進めております。

.....



《専門委員会活動報告》

＜女子委員会＞ 平成30年活動報告

女子委員長 細谷 好子

群馬県で「全日本マスタース陸上大会」開催を今秋にひかえ、女子の結束も必要になっていくなか、13名の方に参加していただきました。

「第14回女子会員合同練習会・親睦会」

実施日：11月10日(土) 13時～16時

会 場：東富岡体育館

内 容：なわとび運動〔講師：高橋 裕さん〕

- ・リズムなわとびで楽しいトレーニング
- ・音楽にあわせて瞬発力、調整力を高める運動
- ・ソフトバレーボール：チームワークを楽しみ、3セット実施

なわとびは、高橋さんの指導の下、久しぶりに盛り上がり、普段やらない動きに年齢ごとに脱落し、又、音楽に合わせて跳ぶ場面では楽しく全員でチャレンジしました。

練習会が終了して、場所を移動し、親睦会の席を設けて気分もさわやか、美味しいものを味わいながら、懇親を深めることができました。

久しぶりのなわとびは充実の運動になったとの声もあり、スポーツの素晴らしさを共有できることに感謝します。又、次年度の開催も11月を予定していますので、是非男女を問わずご参加下さい。

.....

《専門委員会活動報告》

＜強化・普及委員会＞ 2019年に向けた活動について

強化・普及委員長 金子 健司

2017年度末に強化・普及委員長となったものの3月末の人事異動で職場が小学校から中学校に変わると、週末の空きを見つけるのが難しくなり、2018年度は強化・普及委員会の活動を行うことができませんでした。しかし、逆に中学校現場に移動したことで県中体連陸上委員長や強化委員長とは顔を合わせる機会が増え、今後の計画等についても色々相談させていただきました。

来年度から県マスタース陸上会員も県陸協登録が義務化されると各地域陸協等で小・中学生を指導するマスタース陸上クラブ員が増えることも予想される中で、マスタース陸上クラブ員が現在の県中体連陸上部の強化方針や指導内容を理解した上で指導にあたるのは重要なポイントだと考えます。そこで、強化・普及委員会では県中体連陸上部委員長、強化委員長の許可をいただき、強化練習会や強化合宿での練習見学会や強化練習等を見学しながら指導のポイント等学習会を行います。場所等があれば実際に動いて見ましようとなるかも知れません。県中体連陸上部も指導の手伝いをしてくれる指導者を求めています。県マスタース陸上会員が県内のトップクラスの中学生たちの指導を学ぶ機会は、自分の競技力向上にも役立つと考えます。とりあえず、年明けの2回、1月19日(土)正田醤油スタジアム群馬と3月9日(土)前橋総合運動公園陸上競技場に練習見学&学習会を行います。1月は中高合同練習会なので高校生のトップクラスも参加するのでよりレベルの高い練習が行われると思います。3月は県中体連陸上部強化合宿の1日目なので冬季練習の仕上げとシーズンインに向けた移行期の練習が行われるかと思っています。マスタース会員の参加をお待ちしています。どちらも集合時間は9時です。

しかし、このマスタース通信への原稿に活動計画を書いています。発行がいつになるのか分からないので、各クラブの代表者宛にもこの文章を送っておきます。問合せ等は、下記までお願いします。

参加を希望される方は、見学希望種目等、下記まで報告をお願いします。人数によっては強化担当者を増やしたいと思います。

県中体連陸上部の強化計画等を知りたい方等ありましたら、下記までお問合せ下さい。

※強化・普及委員長 金子 健司 [携帯 090-3049-5703] [メールアドレス k-kanekojt7326@docomo.ne.jp]

.....

《クラブ紹介》

1. 玉村クラブ(田中島 務)
2. チーム峰 (峰崎 富夫)

.....

ゆくゆくはクラブ対抗戦で入賞を！

玉村クラブ代表 田中島 務

玉村クラブは、以前「チーム峰」で一緒に登録していましたが、玉村町在住の陸上愛好者が増加してきたので、昨年、分離独立しました。まだマスタース大会に参加しない人が多く、10月のクラブ対抗にもでませんでした。もっと会員を増やし、ゆくゆくはクラブ対抗戦で入賞を目指したいと思います。宜しくお願いします。

.....

チーム峰の紹介

チーム峰代表 峰崎 富夫

初めまして。このたびマスタース仲間入りをさせて頂いた『チーム峰』の代表、峰崎富夫です。
よろしく願いいたします。

当チームのメンバーは全員で12名です。そして、そのほとんどが、いわゆる素人ランナーです。
自分がスポーツをすること自体初めてと言うメンバーもいます。そんな中で唯一目立ったメンバーは、女子長距離ランナーの斉藤きく代さんです。数多くの大会で優勝をはじめ上位入賞を果たしています。
そんな彼女に続けとばかりに、他のメンバーも頑張っているけど、なかなか思うようにはいかないですね。主な練習は、玉村の総合運動公園を中心に毎週木曜日6名前後と、他チームの荒砥ACや前橋中央マスタースからも参加して頂き、アドバイスを貰いながら一緒に汗をながしています。大会に出場して活躍できるようになるのはまだ先ですね。そんなメンバーですので『活躍よりもまずは活動』をモットーに練習しています。

.....

《優勝の喜び》

- 1.群馬マスタース駅伝「クラブ対抗」優勝（AC王山）
- 2.クラブ対抗陸上大会優勝（高崎クラブ）

.....

群馬マスタース駅伝クラブ対抗の部3連覇！

AC王山 荒井 信之

2018年6月10日(日)快晴の中、第16回群馬マスタース駅伝大会で、我がAC王山は見事3連覇を達成した。レースを振り返ると、1区は昨年同様、相蘇紀玄選手(日本精工)、先頭から僅か9秒差(全体4位)で2区オリンピック佐藤美紀選手へタスキがわたる、やや離されるものの力強く3区石田義明選手にタスキは託されて、青東駅伝でも活躍したスピードランナーの走りは総合順位を挽回8位でアンカーの細谷賢輔選手に。今、伸び盛りの30代ランナーは総合でも区間賞の走りで、全体の3位でゴールした。クラブ対抗の部で見事3連覇を達成。来年は総合優勝も視野にチーム練習の強化を目指そう！

.....

3年ぶり王座奪還

高崎マスタースクラブ 密照 樹

2015年、我が高崎マスタースクラブは初優勝を遂げた。

「あの時の感動をもう一度味わいたい！」そんな思いで翌年に臨んだクラブ対抗戦は惜しくも2位その翌年は1位と大差の2位。今年こそはと今大会を迎えました。

ケガや仕事の都合で出場を見合わせる選手が多かったが、それもマスタース陸上。普段は家庭があり、仕事をこなし時間を見つけてはコツコツ練習する。そんな選手が多いと思います。

出場した選手の中には、まったくの専門外の種目に出場し競技を楽しみつつも、とにかくチームのためと頑張っていた姿に胸を打たれました。

最終種目のマイルリレー。疲れがピークの中、一人一人が最後の力を振り絞りゴール。3年ぶり2度目の高崎クラブ優勝の瞬間だった。大会後、懇親会でのビールは本当に美味かった。これからも走る事と美味しいお酒を楽しみながら、未永くマスタース陸上を続けて生きていきたいと思ひます。